

(対象事業：2. 先進的な展示・教育手法の開発等の事業)

事業名：展覧会鑑賞授業教材開発

事業者名：神戸市立小磯記念美術館

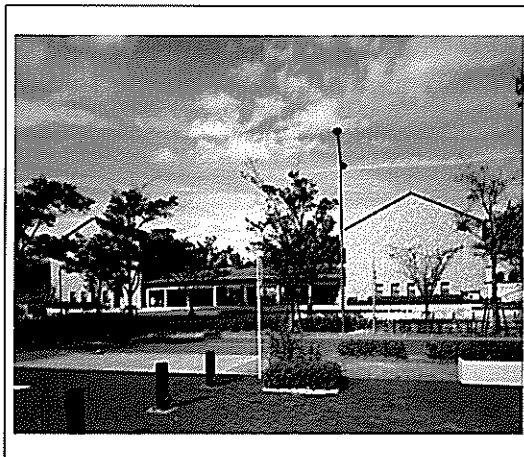
連携事業館名：なし

住所：神戸市東灘区向洋町中5丁目7

TEL：078-857-5880

FAX：078-857-3737

HPアドレス：www.city.kobe.jp/cityoffice/57/koi-so_museum/



①施設概要

神戸に生まれ、神戸で制作を続けた洋画家小磯良平の没後、油彩・素描・版画などの約2,000点の作品が、アトリエ・蔵書・諸資料と共に、遺族より神戸市に寄贈されたことにより、平成4年11月に、開館。

美術館は、21世紀の海上文化都市六甲アイランドの緑豊かな公園内にあり、3つの展示室のほかに、小磯良平のアトリエも移築され復元されている。

開館以降、小磯良平の偉業を顕彰し、作品の収集、保存、調査研究、普及活動を行っている。

②事業の意図目的

児童・生徒が、美術館に親しみ、美術作品により一層興味を持つことができるように、企画展や特別展に応じた子ども向けの教材を作成することで、当館スタッフによる出張授業での活用、先生方による授業での活用、学校団体鑑賞・見学での活用、自発的な学習での活用等を積極的に図る。

③事業概要

特別展に合わせて2種、収蔵作品について16種の子どものための鑑賞ガイドを作成する。特別展のガイドは、鑑賞ガイド教材としても活用できるように考え、学校に紹介し、希望校に提供する。収蔵作品についてのガイドは、子どもたちが自発的に学習するうえでのセルフガイドとして使う。

昨年度までに作成した鑑賞ガイド教材3種について、アンケートと実践記録をまとめた「実践事例集」を作成する。

加えて、これら1年間の取組を集約し、来年度にむけての美術館活用について学校に紹介する「利用の手引き」を作成する。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（子どものための鑑賞ガイド：「中西利雄 水絵の魅力」「三人の画家を楽しむ」収蔵作品について16種）

作成した報告書等

冊子（実践事例集「6つのとりくみとアンケートから」美術館利用の手引き「美術館へ行こう」）

⑤参加者状況

参加者人数 延べ13,989人

内 訳 特別展ガイド 中西展：2,830人 内田展：3,855人 収蔵作品関連：980人
鑑賞ガイド教材利用（事例集関連の3種）：6,324人

(1) 事業の実施状況について

○子どものための鑑賞ガイド（特別展）の作成

16 年度実施の特別展に合わせ、2 種のガイドを作成。学校からの団体見学・鑑賞や個人の自由研究での来館時に、児童・生徒の鑑賞を助けるセルフガイドとして使用。さらに学校での授業に利用できるような内容を考慮して作成することで、出張授業や担当教員が行なう授業の教材としても活用できるようにしたもの。神戸市、西宮市、芦屋市内小中学校に見本を配布。希望校に提供。校長会や研究会でも紹介。他府県からの問い合わせにも譲渡。「活用にあたって」を添付して配布。

A. 中西利雄 水絵の魅力（中西利雄展）A5 版 8 頁



中西利雄 水絵の魅力

中西利雄と小磯良平は東京美術学校の同級生であり、新制作派協会の創立メンバーである。滞欧期には共に旅行へ出かけるなど、お互いに刺激し合い、励まし合った仲である。また、中西の作品は一昨年作成した鑑賞学習セット「絵画の同窓会」でも取りあげており、その作品は子どもたちにも人気がある。

作品には、一貫して小中学生に馴染みの深い水彩絵の具が使われ、その魅力を十分に味わう事ができる。ガイドは中西の作品の変遷とともに、彼の言葉を添え、作家の思いがやさしく伝わるようにした。展覧会終了後も絵画の同窓会と合わせて使うことも可能。

発行時期 平成 16 年 4 月

発行部数 15,000 部

ガイド利用状況

年度始めの会期ということもあり、来館して活用する学校は少なかった。

来館して鑑賞学習した学校

- ・小学校 2 校 ・養護学校 1 校
- ・高等学校 3 校

学校でのガイド利用 9 校 2,477 名



中西利雄「婦人帽子店」の前で
ギャラリートークの様子

B. 三人の画家を楽しむ（内田 巖展） B 5 版 両面 三つ折り



三人の画家を楽しむ

展覧会は、画家内田巖の生涯を辿ったものであるが、子どもたちには、内田と共に、同展に出品の新制作派協会創立メンバー猪熊弦一郎、小磯良平の作品と並列に紹介し、三人の作品を比べながら味わうことができるよう考えた。同時代に刺激し合って成長する画家の姿を感じることもできる。展覧会終了後も鑑賞教材や、小磯関連の資料としての価値も期待できる。

発行時期 平成 16 年 10 月

発行部数 15,000 部

ガイド利用状況

来館しての利用が多く、図工の鑑賞

学習以外に、総合的な学習の一環としての利用もあった。

来館して鑑賞学習した学校 小学校 8 校 中学校 2 校

総合的な学習で利用した学校 小学校 3 校 中学校 1 校

出張授業 小学校 3 校

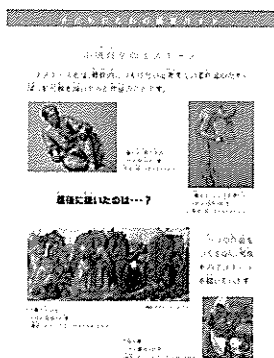
美術部での利用 中学校 1 校

学校でのガイド利用 8 校 2,114 名



ギャラリーツアーの様子

○子どものための鑑賞ガイド（収蔵作品）の作成 A 5 版 片面



収蔵作品のなかから選んだ 7 点の油彩作品に加え、技法別、テーマ別に作品を紹介するものなど、16 種を作成。学校からの団体見学・鑑賞や個人の自由研究での来館時に、子どもたちの自発的な学習の手助けとなることが期待できる。収蔵作品展Ⅵでは、このガイドに沿った展示も行った。学校での利用に対しての提供はしていない。

発行時期 平成 16 年 8 月

発行部数 16 種 各 20,000 部 320,000 部

収蔵作品のガイド

ガイド利用状況

2 学期に来館する学校に役立った。おもに、収蔵作品展Ⅴ、Ⅵでの利用が多かった。（収蔵Ⅳは内田展と同時開催）また、収蔵作品展Ⅵは、展示室 3 をこのガイドに合わせて技法別、テーマ別のガイドに合わせ、展示を行った。

来館して鑑賞学習した学校

- ・ 小学校 7 校 ・ 中学校 1 校
- ・ 高等学校 1 校

総合的な学習で利用した学校

- ・ 小学校 3 校

美術部での利用

- ・ 中学校 1 校 ・ 養護学校 1 校



収蔵作品ガイド使ったの自主的な学習

○鑑賞ガイド教材実践事例集「6つのとりくみとアンケートから」の作成 A4版 32 頁

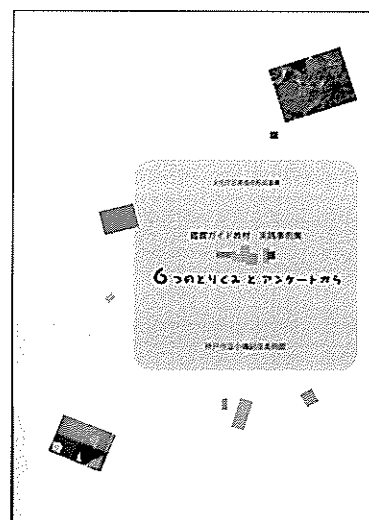
これまでに芸術拠点形成事業で作成した鑑賞ガイド教材「絵画の同窓会」「神戸大発見!」「岡田謙三 ユーゲニズムへの道」を使った授業実践を紹介するもの。教材を提供した学校にアンケートを実施。これをもとに、小中学校6つのとりくみとアンケート結果をまとめた。17 年度には、これをもとに教員向けの研修講座をもつ予定。神戸市、西宮市、芦屋市内小中学校に配布。校長会や研究会でも紹介。

発行時期 平成 17 年 3 月

発行部数 3,000 部

作成手順

- ① 一昨年、鑑賞ガイド教材提供校にアンケート実施。
- ② 実践提案の教員に執筆を要請
- ③ 実践事例集作成委員会
 - ・ 原稿作成要項検討
 - ・ 印刷仕様
- ④ 各執筆者と原稿検討（授業参観を含む）
 - ・ 執筆者ごと、2, 3 回実施
- ⑤ 校正・印刷・発行（3 月）



6つのとりくみとアンケートから



「絵画の同窓会」を使った授業



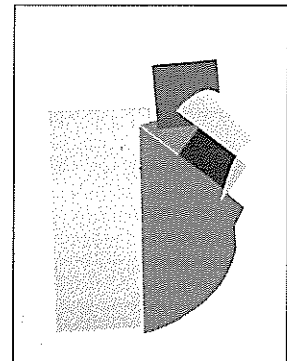
「神戸大発見」より
中山岩太の写真を
鑑賞後、児童（小
学 5 年）が撮影し
たもの

作成にあたって配慮したこと

- ・児童・生徒の活動の様子、作品、言葉などをできるだけたくさん掲載し、子どもの姿がより具体的に伝わるようにした。
- ・実際に授業を行った教員の声を紹介し、教材活用の今後の可能性を探った。
- ・事前にアンケートを実施することで、活用状況がより具体的につかめるようにした。
- ・6つのとりくみは、小中学校から各教材1名ずつに提案してもらい、様々な校種での活用を紹介した。
- ・これらの鑑賞ガイド教材の活用について、17年度に研修講座を開き、活用の実際が、より広く紹介できるように計画している。

(※執筆者を中心にパネルディスカッション形式を予定)

「岡田謙三 ユーゲニズムへの道」を使った
授業から生まれた生徒（中学1年）の作品

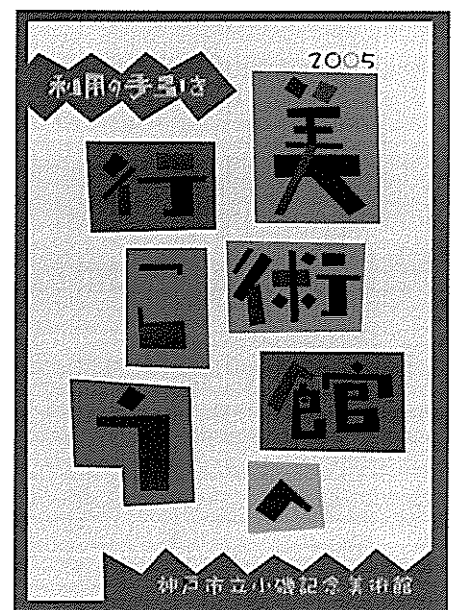


○美術館利用の手引き「美術館へ行こう」の作成 A4版 12頁

今後、美術館の利用内容を充実し、幅広く利用してもらえるよう、教員向けに団体鑑賞・見学やスタッフによる出張授業、教材の提供など学校での美術館活用をより具体的に紹介するもの。16年度の実践を踏まえ、掲載内容を精選し、16年度作成した教材の提供なども紹介した。16年度当初、神戸市、西宮市、芦屋市内小中学校に配布。校長会や研究会でも紹介。他府県からの問い合わせにも譲渡予定。

発行時期 平成17年3月

発行部数 2,000部



美術館へ行こう

(2) 地域との連携について

主に神戸市立小学校・中学校との連携を密に図り、作成したガイドの活用を行った。

(3) 成果物について (1) に含む。

(4) 参加者の反応（鑑賞ガイド利用についての教員の反応）

- ・ 展覧会の紹介の際に、役立った。
- ・ 2・3年の美術部の活動で活用。文化祭、各展覧会のための作品づくりに、作品を鑑賞することにより、基本的な描写力を学ぶ機会としました。
- ・ 子どもたちにとって、美術館の心得、作品の見方など今後の活動において大いに勉強になった。自分の好みの作品の前で、学校とは別人のように熱心に取り組む姿が印象的だった。（ガイドを用いたギャラリートツアーに参加した学校より）

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

特別展の子どものための鑑賞ガイドについては、学校団体での利用が、特別展に人気が集中することもあるが、たいへん役立った。来館した学校には、事前のオリエンテーションや事後のふりかえりで、これらを使ってもらった。また、来館できない学校にも、希望校にはこれらガイドを提供し活用してもらった。これらのガイドは、今後教材としての活用が期待できる。

収蔵作品のガイドについては、今年度は、来館した子どもたちに対してのみの提供に終わった。他に学校団体利用にあたっての打ち合わせの際、引率する教員に対し、展示作品の情報を提供するのに役立った。教員には作品と子どもたちのスタンスを理解してもらうのにも効果的だったと考えている。

鑑賞ガイド教材 実践事例集の作成にあたり実施したアンケートには、利用校の約半数の回答。様々な活用事例が寄せられた。合わせて子どもたちの声もたくさん寄せられ、活用状況をより具体的に把握できる機会を得た。

また、これらの教材は、展覧会と直接関連がないものの、子どもたちが小磯記念美術館や小磯良平に興味を持ち、足を向けようとするきっかけになった。実際に美術館に出向いた子どもがいることもアンケートから確認できた。今後もこれらを学校で活用してもらうことによって、美術作品や美術館に対する興味関心を高め、文化財を大切にしようとする態度を育てていくことができると期待している。

美術館利用の手引き「美術館へ行こう」の作成を通じて、これまでの普及事業がずいぶん整理されてきた。学校との連携について、当館の特性を生かしてどんなことができるのか、17年度の課題や目標を設定する材料にもできた。今後も「美術館へ行こう」の作成が普及事業の振り返りと可能性を考える場所になっていくと考えている。活用はむしろこれから。2005年度当初に各校に配布後すぐ、団体利用の問い合わせがいくつもあった。

本事業で作成した美術館利用の手引きと子どものための鑑賞ガイドの提供は、当館の普及活動を、学校に周知してもらうためにもとても効果的であった。鑑賞ガイド教材を利用後、来館する学校が増え、リピートする学校も多い。

また、実践事例集の作成では、ガイドの活用状況を具体的に把握できる機会を得、教材毎に新たな課題や可能性を探ることができたと考えている。